

病院広報誌

わ げ ん あ い ご
和 顔 愛 語

医療法人 真生会
 真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

vol,30

- 💡 新型コロナウイルスにどう立ち向かったか
- 💡 4月に赴任した医師の紹介
トウホウセイ
鄧宝成医師 帰国
- 💡 #ステイホーム, #真生会エール飯
- 💡 コロナこころのケア
- 💡 真生会オールスターズ



新型コロナウイルス対策室のメンバー

新型コロナウイルスにどう立ち向かったか



刀塚医師（右）と梅田看護師（左）

流行の第一波が収束しつつある6月初旬。当院が行ってきた新型コロナウイルス対策を刀塚俊起医師（副院長・内科医師）、梅田加洋子看護師（主任・感染管理認定看護師）に聞きました。

■対策の開始時期
 (刀塚) 1月末はインフルエンザ患者さんの対応もあり、「新型コロナウイルスは日本で流行するののか」とまだ疑っていました。2月に入ってからクルーズ船内の感染が報道され、国内に広がりを見せてきたあたりで「これはまずい」と危機感を覚えました。

■まず始めたことは
 (刀塚) まず、3月中旬に新型コロナウイルス対策室（表紙の写真はメンバーの一部）という組織ができました。次は発熱外来の設置です。当初は管理棟1階の旧心療内科で行う案が出ました。しかし、新型コロナウイルスの診断にはレントゲン撮影がど

うしても必要で、南館のレントゲン撮影室から近い駐車場の一角にプレハブを建てることになりました。

(梅田) 正面玄関で検温をし、発熱や風邪症状のない方は院内へ、それらの症状のある方は発熱外来へ誘導する流れができましたので、有効な感染対策だったと思います。



正面玄関の検温。当初はスタッフが非接触体温計で測っていたが、取材時点（6月16日）では自動測定システムを導入。

■大変だった物資の手配
 (梅田) 防護服、マスク、アルコール類が急に入荷しなくなりました。職員にはマスクを大切に使うてもらおうよう案内しました。地元の方や海外から、マスク、フェイスシールドをはじめ応援物資を数多く寄贈していただき、大変感謝しています。



発熱外来の看護師。院内で作った防護服も利用した。（※写真は既製品）

■今後の対策

(刀塚) 現在の病棟とは別の場所に病室を整備しました。入院患者さんの中にコロナ感染が疑われる方がみつかった場合の臨時病床です。



臨時病床は2床ある

後も続けた方がよいと思います。

(梅田) 感染が抑えられたのはここまでの努力の結果だと思えます。冬を越すまでは油断せず、乗り切っていきたいと思います。

(刀塚) 緊急事態宣言の期間は病院に来られない方も多くありました。特に高齢の方や救急受診者が減少しました。他の地域では感染を恐れて受診せず、手遅れになったケースもあると聞きます。病院に来られなくても患者さんの様子がわかり、適切な治療ができるようにする、例えばインターネットによるオンライン診療などのシステム構築に期待します。

■今、注意すべきこと

(刀塚) 夏と比べて冬は空気が乾燥し、感染が起こりやすくなります。約百年前に流行したスペイン風邪も第二波の方が大きな被害が出たそうです。人混みを避ける、マスクを着用するなど、今

挑戦！手づくり防護具



1



2

デザインを考えたのは、酒井周建さん（施設管理課、写真1）。4月下旬から5月中旬にかけて、医局、管理部、看護部、中央検査科、中央放射線科、デンタルクリニック、健診科、食膳栄養科のスタッフが手伝い、300着以上できました。45～90ℓのポリ袋に数ヶ所の切り込みを入れた後、手づくりの木製ガイド（大きな定規）に固定し（写真2）、アイロンで接着します。「自分にできることを」と集まったスタッフ有志の思いが詰まった防護服です。



3



4

庄司伸江さん（看護部・看護師、写真3）は防護服と急変患者対応用の「コロナガード」（写真4）を作成。防護服は現場の看護師に意見を聞き、「安全性」「使いやすい」「動きやすさ」を重視しました。防護服は脱ぐときに顔にふれると自身が感染源になってしまうため、その点を考慮したデザインになっています。コロナガードは医療従事者が心臓マッサージなどの処置を行う際、患者さんが吐く息や飛沫からの感染を防ぎます。家庭菜園で使用される支柱（ホームセンターで購入可能）、結束バンド、ポリ袋を組み合わせ、1つ500円程度でつくることができます。

4月に赴任した医師の紹介



【眼科】鈴木 貴文 医師

千葉県出身。昨年度まで東京大学医学部附属病院眼科で勤務していました。富山県の風土や真生会富山病院の雰囲気（きづ）に魅かれ異動してきました。臨床・手術・研究に励み、世界中の患者さんの眼を救いたい熱い気持ちに溢れていますのでよろしくお願いいたします。

～パワーフレーズ（座右の銘）～
険しい道を選び続ける



【麻酔科】原田 樹 医師

群馬県出身。救急や麻酔を専門としています。線維筋痛症（慢性疼痛や極度の疲労、不定愁訴と言われる多岐にわたる症状）の闘病経験から徒手療法や認知行動療法、漢方（しんきやう）や鍼灸などさまざまな観点から治療にあたる統合医療に関心があります。西洋医学だけでは満足いく体調が得られない方の力になりたいと考えています。

～パワーフレーズ（座右の銘）～
朝の来ない夜はない

#ステイホーム

新型コロナウイルスの流行で外出を自粛する「ステイホーム週間」が続きました。本院スタッフの「おうち時間の過ごし方」を紹介します。



深谷 香織さん（看護師）

左の写真はステイホーム中につくった料理です。普段はあまり手間をかけられない分こだわって、子どもたちに食べてもらうことが楽しみでした。



トウホウセイ 鄧宝成 医師 帰国

（※令和2年6月4日時点の情報です。）

中国、遼寧省（りょうねいしやう）の瀋陽（しんやう）から研修にいられた鄧宝成（とうほうせい）医師（中国医科大学付属第一病院教授）が1年間の研修を終えて帰国されました。研修中の思い出や、世界で最初に新型コロナウイルスと戦った中国の現状など、お聞きしました。

ます。驚いたのは、患者さんが亡くなったときに病院を出られる最後の瞬間まで見送っていたこと。患者の多い中国ではとてもできません。医師と患者の信頼関係があるからできることだと思えます。

思います。日本では国から自粛要請（ようけい）が出ましたが、他国のように外出を禁止せずに緊急事態宣言が解除されました。真面目な国民性と、手洗いやマスクの習慣が浸透している日本だからできたことだと思えます。

◆感染のピークを過ぎた中国の現状はいかがでしょうか。

―病院の機能は少しずつ正常に戻りつつあります。ワクチンの研究も進んでいます。

◆中国に帰られてから新たにやりたいことはありますか。

―真生会では毎週、医師が専門分野の発表をする症例検討会がありました。自分の病院でも同じ形式でできたら良いと思います。まだ渡航が難しいですが、インターネットのおかげで真生会とオンラインの交流ができます。新型コロナウイルスからいち早く回復した

◆研修を終えられたお気持ちはいかがですか。

―特に心に残っているのは、医師の姿勢です。患者の立場に立って、質の高い医療を提供するにはどうすれば良いかを最優先に考えてい

◆先生は感染症が専門ですが、新型コロナウイルスの問題をどうにお考えでしょうか。

―多くの国で感染者が出ていますが、日本も中国も感染拡大のコントロールに成功した国と言える

国として、中国が日本に共有できる経験があると思います。（インタビュー…齋藤美世）

●佐々木彰一（あきひと）医師より
肝臓感染症病理学の専門家として肝疾患に貴重なご意見をありがとうございました。内科外来、内視鏡検査、筋膜リリース法などに参加していただきました。近所の居酒屋で語りあい、中国出張では火鍋（中国の名物料理）を食べ、王朝（こきやう）の故宮（せうきゆう）（世界遺産）に行ったことも良い思い出です。当院のご経験が実りあるものであれば幸いです。



研修担当の佐々木医師（右）



高森裕美子さん
(地域渉外室・副室長代行)

真生会 オールスターズ

真生会で働くスタッフを紹介する新コーナー。
初回は地域渉外室・副室長代行の高森裕美子さん。地域渉外室は今年4月にできた部署です。仕事の中身を聞いてみましょう。

病院で渉外が必要なワケ
渉外とは外部と交渉することですが、私は主に開業医（以下、クリニック）を訪問し、真生会の診療を紹介しています。医療機関にはそれぞれ役割・専門性があり、できる治療、できない治療があります。

まず。治療が難しい患者さんが来られたら、治療のできる医療機関を紹介します。クリニックの先生と顔の見える関係を築くことで、地域全体で患者さんの健康を守りたいと思います。

本音が出る関係づくり
訪問を重ねると本音をお聞きできるように思います。特に当院への苦情をお聞きできたときは「信頼の証」とありがたく受け止めています。この仕事にやりがいを感じる瞬間でもあります。

患者さんの「その後」が知りたい
クリニックの先生にとって一番の関心事は、紹介した患者さんの「その後」です。治療が終わればクリニックに戻られるのが通常ですが、受診に來られないと心配されます。そこで、この手術のあとどんな治療をいつ頃クリニックに引き継ぐのか、目安をお伝えすることがあります。

訪問できないときは
コロナの流行中は訪問できなかったため、手紙で近況をお知らせしていました。これからも地域の患者さんが必要な治療を適切な場所で、適切なタイミングで受けられるよう、医療機関同士の橋渡しの役割を果たせればよいと思っています。

訪問時にお話しする話題の情報収集、持参するものを準備

訪問の日程調整

訪問

訪問のお礼状を書く

コロナこころのケア

コロナウイルス感染拡大で私たちの生活が大きく変わりました。こころを健やかに保つためのちょっとしたヒントを臨床心理科からご紹介します。



臨床心理科には明橋大二医師（左から2番目）と公認心理師3名が在籍する。

*不安、心配ごとから少し離れる

- ・電話やLINEで誰かとつながろう。ときどき誰かと言葉を交わすと、気持ちがおちついたり、気分転換になりますよ。
- ・散歩や食事、読書、ゲームなど楽しもう。「風が気持ちいいな」、「肌触りが柔らかい」、「美味しい」、「ドキドキ、ワクワクする！」など、身体でリアルな心地よさを感じられると良いですね。

*ステイホームで家族の再発見

家族一緒の時間が増えたら、お互い知らなかった一面に気がつくかもしれません。身近な人と改めて「新しい出会い」から始めませんか？

*「あくせくしないこと」のよさ

学校や仕事の再開で、「戻ることの不安」もあるでしょう。三密を避ける生活を続けて気づいた良いところもあるのでは？これからも大事にしたいですね。

*遠くて近い関係

会議も飲み会も、あらゆるところでコミュニケーションのオンライン化が進みました。こうしたツールを上手に使いましょう。医療サービスにおいても、患者さんの安心、安全につながりますように。

#真生会エール飯

「真生会エール飯」は新型コロナウイルスと戦う飲食店でテイクアウトを利用する応援企画。同僚や家族とテイクアウトを利用したスタッフのうち、3名のレポートです。（※利用時の情報であり、現状とは異なる場合があります。ご了承ください。）

いけぶちりさ
【池淵 理紗さん】
(臨床心理科・公認心理師)

家族でエビフライ（下の写真）、ハンバーグなどを注文。日頃食べられない、プロの洋食が味わえました。



だいじゅうてい
大重亭
(高岡市末広)

あかしあきら
【明石 彰さん】
(施設管理課・課長補佐)

広島風お好み焼きを注文。麺はそばとうどんが選べますが、どちらもおいしかったです。



とみのや
富乃家
(射水市放生津町)

ありさ
【北村 有紗さん】
(PTS 推進室・主任)

ローストビーフ丼（左）とチキン南蛮（右）。おいしいだけでなく、メッセージ付きがうれしかったです。



げん太
(射水市下若)

診療案内

診療科

内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、眼科、麻酔科、心療内科、精神科、神経内科、放射線科、泌尿器科、消化器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、真生会デンタルクリニック（歯科）

受付・診療時間

【午前外来】 平日・土曜日

受付 8:00 ~ 11:30

(診察 8:50 ~ ※整形外科のみ 9:00 ~)

7:45 から整理券を配布します。

正面玄関は 7:45 に開きます。

【昼外来】

アイセンター（眼科）のみ

受付 13:30 ~ 16:00 (診察 14:00 ~)

※火曜日のみ受付です。

【夕方外来】 月、水、金曜日のみ

受付 16:00 ~ 18:45

(診察 16:30 ~、※整形外科と眼科のみ 17:00 ~)

2つ以上の科を受診される際は、午前は 11:00 まで、夕方は 18:15 までに受付をお済ませください。

【休診日】 土曜日午後、日曜日、祝日

休診時間帯は、当番医師が待機しております。

※診療時間は変更する場合がございます。事前にお確かめください。

敷地内全面禁煙を実施しています。
(※病院建物内、駐車場、駐輪場すべて)

電子タバコについても

従来のタバコと同様に

敷地内全面禁煙としています。

ご理解とご協力をお願いいたします。

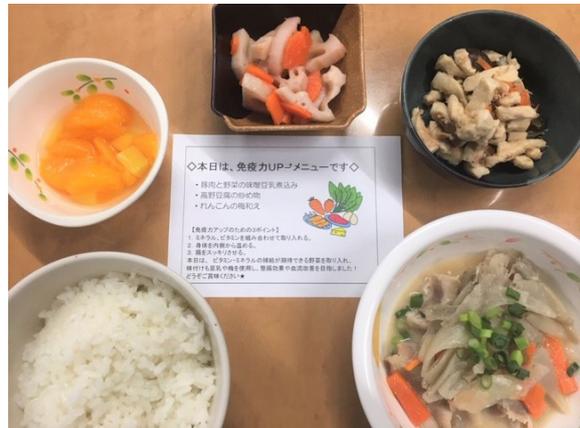


毎月好評！

イベント食

入院患者さんに月 1 回提供しているイベント食をご紹介します。ご家庭でも参考になさっていただければと思います。前号に引き続き、免疫力アップメニューです！

★真生会の栄養士の Facebook はこちら★ QR コード → <https://www.facebook.com/shinseikainoeiyoushi/?fref=ts>



～お品書き～

- ・豚肉と野菜の味噌豆乳煮込み
- ・高野豆腐の炒め物
- ・れんごんの梅和え

腸活（腸内環境を整えること）は、免疫力アップにもつながります。乳酸菌などの発酵食品の他、大豆製品や海藻、野菜、果物などの食物繊維やオリゴ糖を摂ることも、腸活には大切です。ぜひ参考にしてください。

NST（栄養サポートチーム）
公認キャラクター



左：まもりタイソウ
右：まもりマスオ

劇団 TIPS 始動！

真生会スタッフによって結成された劇団 TIPS が活動を再開しました。公開講座は 2 月の健康ワンポイント教室（右の写真）を最後に休止していましたが、このたび患者さん、スタッフを応援するメッセージ動画を作成。劇団メンバー以外の多職種スタッフも登場します。右の QR コード（当院ホームページ「劇団 TIPS のご紹介」へリンク）からご覧いただけます。



QR コード